

### 今号の内容

- ◆ 6月から11月まで特定健診へ行こう 2~3
- ◆ 水郷柳川夏の水まつり 4~5
- ◆ うまかもんつくりぐっちょ参加募集ほか 6
- ◆ 身体・知的障害者相談員を紹介ほか 7
- ◆ 市民のひろば(8-9) ◆ 俳句(9) ◆ 情報わいど(10-13) ◆ がんばったね(14) ◆ もちふみデビュー(14-15) ◆ 人権・同和教育シリーズ(16)



## 看護師の卵 誓い新た

杉森高校で6月2日、第41回戴帽式が行われました。戴帽式は、同校の看護科3年の女子生徒にナースキャップを、男子生徒にエンブレムを授け、本格的に医療の現場での実習に臨む生徒を送り出す行事。戴帽生81人を代表して木下陽加里さんが「理想の看護師に近づけるよう、逃げることなく努力していきます」と決意を述べました。

# 人権作文

## 大好きになった算数の学習



倉田 恵未華 さん

算数の時間、私たちは4年生のとき、「学び合い」の方法で学習していました。「学び合い」は、まず自分で問題を解き、分からないときに友達が考え方を説明してくれたり、友達が分からないときに今度は逆に自分が説明したりして、みんなで解決する学習です。

最初は「学び合い」ができるのは、学級の中でも限られた人たちだけでした。けれど学習をくり返すうちに、全員で協力し合い、考えを出し合って「学び合い」ができるようになりました。

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。今回は、矢ヶ部小学校5年生の2人です。

## 友達の大切さ



古賀 寛人 くん

「がんばれ」「みんなと一緒に考えよう、分かるようになるよ。」などと声をかけ合いながら励まし合うようになりました。また、「恵未華さん、すごいね。」と言われると、うれしくて問題がだんだん分かるようになりました。それからは、算数の勉強が難しくてもすぐにあきらめることなくになりました。

また、全体交流では、「学び合い」が生かされ、分からなかった人も全員がほぼ完璧に理解できるようになります。「学び合い」を始めてからは、友達の良いところも見つけられるようになりました。今では「学び合い」の仕方を教えてくれた担任の先生にとても感謝しています。5年生でもぜひ続けたいです。



もし、友達がいなかったら、ぼくはどんな毎日を過ごしているだろうかと思えます。

ある日、友達とけんかをしました。原因は、相手のことを考えないわがままな言葉を使ってしまったことでした。友達と何日も口も聞かず、遊ぶこともできませんでした。一緒に話したい、遊びたい、と何度も思いましたが、できなくてさびしい気持ちになりました。

そこで、思い切って自分から「ごめんね。」とあやまりました。すると友達も、「ごめんね。」とあやまってくれたのですっきり

しました。矢ヶ部小学校では、1年から6年まで全員が仲良しです。全員で遊んだり、縦割りで歓迎遠足に行ったりします。毎日の掃除(ハートクリンタイム)や月1回の「やかべっ子タイム」、ふれあい広場、スポーツ集会なども縦割りで行います。下級生は上級生にいろんなことを教えてもらいます。上級生は下級生にやさしい態度で分かりやすく教えます。ぼくは入学したときから何て楽しい学校だろうと思っています。

これからも友達との大切さをよく理解し、思いやりを持って生活していきたいです。

【評】算数の学習や、学校生活のいろいろな場面でのかわり合いを通して、友達という存在の大切さ、友達と協力し合うことの大切さを学んでいますね。これからも、学習や縦割り活動などを通して学年の枠を超えて、やかべっ子の輪を広げていきましょう。